



北海道胆振東部地震から3年

輝きを紡ぐ

夜空に広がる無数の星。多くの町民が自慢する風景が、そこにありました。静寂の中から聞こえてくるのは、稲穂をくすぐる風の音と厚真川のせせらぎ。静かに時は流れていました。

厚真町は、応急期を経て、復興に取り組んでいます。新たな歴史を刻む道のりは、始まったばかり。「輝く町」を創出するために、町民一丸となって前を見据えています。夜空に広がる星のように、厚真町は光を放ち続けます。北海道胆振東部地震から3年。町内をめぐるしました。

伝える

9月5日、北海道胆振東部地震の慰霊碑の除幕式が執り行われました。

つたえり公園(京町)内に建立された慰霊碑は、犠牲となった37人の方々が、この地で私たちと同じ時を生きた証として建立されました。御霊が永久に安らかならんことを祈ると共に、郷土の未来を守っていただくことを願っています。

慰霊碑の外輪には、北海道胆振東部地震が発生の時刻3時7分が刻まれ、中心の黒御影石の円盤は、反射によってお参りされた方の思いを投影します。町と包括連携協定を締結した札幌市立大学デザイン研究科の皆さんの協力で、デザインされました。輝くあつまを次世代につなぐ歩みを伝えています。



ひとのうごき

令和3年8月31日現在 ()内は前月比

人 □ 4,412人 (-4)
男 2,204人 女 2,208人

世帯数 2,122世帯 (-1)

8月1日~31日届出分

※窓口などで、広報紙への掲載について確認できた方を掲載しています。

facebook <フェイスブック>
お知らせやイベント情報を
発信しています。

<https://www.facebook.com/atsumatownhokkaido>

LINE LINE <ライン>

災害時の緊急情報、支援情報、町政情報などを
配信しています。

※LINEアプリから友だち追加してください

・IDで追加 @atsuma

・QRコードで追加

「広報あつま」はホームページでもご覧いただけます

<http://www.town.atsuma.lg.jp/office/>

広報あつまの電子書籍はこちらから。
www.hokkaido-books.jp

北海道内のすべてがそろった「電子書籍」ポータルサイト「ホッカイドウ イーブックス」

Hokkaido books

ホッカイドウ イーブックス実行委員会(株式会社 須田製版 内) Tel.011-621-1000(代表)

広報あつま

2021年 9月号
令和3年

も く じ
CONTENTS

- 2 ひとのうごき
- 3-7 北海道胆振東部地震から3年
- 8-9 お知らせ
 - 10 新型コロナウイルス感染症に関する支援情報
気象台ノート
 - 11 防災のページ
- 12-13 国民年金
- 14-15 まちの話題
 - 16 厚真町庁舎周辺等整備基本構想・基本計画
アンケート結果(抜粋版)
 - 17 厚真町地域おこし協力隊/将来の夢&目標
 - 18 厚高インフォメーション/短歌
令和3年度花いっぱいコンクール結果発表
 - 19 健康情報
 - 20-21 保健の掲示板/まちのアイドル
 - 22 子育て支援センター/こぶしの湯あつま
 - 23 情報ひろば
 - 24 ATSUMA LOVERS

※広報担当が取材した記事は、写真撮影時のみマスクを外しています。

今月の表紙
COVER



富里浄水場直下の畑で8月11日、数千株のヒマワリが満開になりました。地力向上のため被災者が植えた緑肥用ヒマワリです。圧巻な景色は、今年が最初で最後。来年は畑に戻ります。



色づき始めた主力の水稲

稲穂が、首をたれ下げました。間もなく、収穫期を迎えます。カボチャ、ホウレン草、イチゴ、花き…。化粧箱に書かれた「あつま」の文字が、市場で踊ります。

営農用水の復旧や田畑などに堆積した土砂もほぼ撤去され、農地には緑が戻りました。喪失感や挫折感との葛藤を克服した生産者は、震災後も途切れさせることなく、消費者に熱意を届けています。



青々とした葉を広げるホウレンソウ



赤く染まる豊潤なイチゴ



ハスカップ農家
土居 元さん(朝日)

土居ハスカップ農家の代表で、常に笑顔で来訪者と接します。ハスカップを通じた人とのつながりを深め、果実の魅力と共に人が集まるマチにしたいと、将来を見つめています。

祖父が勇払原野から移植したのが農園の始まり。ハスカップの木は、約2千本あり、30年以上の成木が中心です。北海道胆振東部地震で裏山が崩れて成木の半分が土砂に埋まり、地割れなどで果実の成長が鈍りました。農園にある成木をせん定して挿し木を作り、少しずつ株を増やしています。

味が濃く、甘みや酸味など、味のバラエティーに富むのが厚真産ハスカップの魅力といえます。「僕にとってハスカップは、人生を育ててくれる果実。苦労も含めて心から楽しい仕事です」と土居さん。サンショウウオが姿を見せる豊かな自然環境を保ちながら、今後も持続可能な農園づくりに励みます。



花き農家
折坂 泰宏さん(軽舞)

炎天下の8月、折坂さんは、本州向けの花の出荷準備に追われていました。米や畑作物に加え、花きも栽培。JAとまこまい広域花き専門部会の副部長も務めます。

お盆から晩秋まで、本州の花き生産地は端境期で、道内の花などが市場に並びます。花の出荷の最盛期に北海道胆振東部地震に遭いました。約1カ月断水が続き、毎日、給水所から水をくみ、発電機やポンプを使って「あつまの花」を市場に供給し続けました。「当時は、緊張の連続。花を栽培しているビニールハウス内に地割れができ、修復や生産、生活など必死で、喪失感との闘いでした」と振り返りました。

被災した自宅の選花場は、建て直しました。花き栽培の生命線は、温度や湿度の徹底管理。折坂さんは「手間はかかりますが、花を通じて元気な厚真をPRしたい」と胸を張ります。



新町のぞみ団地
金子 直光さん

「間もなく、引っ越して1年。早いなあ」。居間のソファで穏やかに話し始めました。団地内では、住民の声の聞き役としてコミュニケーションを深め、行政に意見を進言することもあります。

美里地区で被災し、妻と2人暮らし。妻は、玄関先で趣味の花壇づくりを楽しみ、金子さんは今も同地区にある約30アールの畑に通い、カボチャやジャガイモ、トマトなどを作っています。「くよくよしても仕方がないさ」と、気丈な一面をのぞかせました。

団地では、住民同士の会話も大切にしています。町への意見を持っていたも遠慮したり、あきらめる人もいます。そのため、日常会話の声に耳を傾け、必要があれば役場に橋渡しします。「最後に皆が良かったって思えたらそれでもいい。コミュニケーションは大切にしたいんだ」。

根底には、郷土気質がありました。住民の多くは厚真育ちで、「気心が知れて皆、温かい」と胸を張ります。また、年齢に左右されず「膝を突き合わせて五分と五分の付き合いができる。愛情に包まれたマチだよ」と語りました。住民や行政との言葉のキャッチボールを大切にしながら、町の復興を見守っています。

暮らし

町は昨年、災害公営住宅 32 戸、公営住宅 46 戸を整備しました。このうち、災害公営住宅は、本郷きずな団地 8 戸、新町のぞみ団地 20 戸、上厚真あかり団地 4 戸で、住民は昨年 9 月末から 10 月末に引っ越ししました。新たなコミュニティーが芽生えています。

また、全国初の大型福祉仮設住宅で避難生活を余儀なくされた社会福祉法人北海道厚真福祉会の新施設も昨年 12 月に隣接地に完成し、引っ越ししました。利用者は、1 カ月足らずで新たな生活環境にも慣れ、心穏やかに笑顔で生活を続けています。



利用者が穏やかに暮らしている北海道厚真福祉会の新施設



北海道厚真福祉会
近藤 泰行理事長



北海道厚真福祉会
小田 千秋常務理事

北海道胆振東部地震で施設が被災した社会福祉法人北海道厚真福祉会。

利用者は、全国初の大型福祉仮設住宅での集団生活を経て、昨年末に隣接地の新施設に引っ越ししました。今の様子について、近藤泰行理事長と小田千秋常務理事に話を聞きました。

「立派な施設に感謝しています。利用者から、連日のように職員にお礼の言葉が寄せられます。環境変化を懸念していましたが、「すぐに環境になじんでくれました」と小田常務理事は振り返ります。新設された機能訓練室では、リハビリ訓練のほか、レクリエーションや映画の放映会なども開き、笑顔が溢れています。

悩ましいのは、新型コロナウイルス感染症です。道内で発症例が確認されて以来、施設内での家族との面会や一時帰宅は中止しています。「家に帰りたい」とか「たまたに家庭料理が食べたい」と話す人もいます。

近藤理事長は「家族と自由に会えない状況は忍びないですが、職員の努力のおかげで施設そのものが大きな家族だと思っています。皆で力を合わせ、安心して暮らせる環境を提供します」と結びました。



上から上厚真あかり団地、
本郷きずな団地、新町のぞみ団地

課題

北海道胆振東部地震から、3年が経ちました。改めてこの震災で犠牲となられた全ての御霊に対して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

つたえり公園内に設置した慰霊碑には、発災した時刻の3時7分が刻まれています。約10秒にも満たないあの一瞬で、私たちが慣れ親しんだ自然景観は一変し、地域や家族の歴史を紡いだ家屋や生産基盤、森林は脆くも崩れ去りました。犠牲となった37名とともにこの地で同じ時を生きた証を刻み、改めて郷土の明日を切り拓いていく誓いを立てさせていただきました。

私たちは決して復旧・復興への想いを閉ざすことなく、町民一人ひとりの災害に立ち向かう姿勢とご理解ご協力により、ここまで復旧を進めることができました。今後も被災者に寄り添い誰一人として取り残すことのない復旧・復興を目指して、たゆまぬ努力を続けるとともに、被災の記憶を継承し、防災意識社会の実現を目指します。

新型コロナウイルスの感染拡大は、被災地の復旧・復興の推進にも影を落としています。協力し合い、都市との共生や地方の安全な空間を活かしてこそ、犠牲となられた方々から託されたふるさと厚真町の復旧から復興へ、復興から創生への歩みが着実なものになると信じています。

令和3年9月6日
厚真町長 宮坂 尚市朗



上：農地に仮置きされた堆積土砂の除去作業(幌内沢)
右：森林の再生や林業の復興などについて現状を説明する町職員(宇隆)



復旧事業の進ちょく状況 令和3年7月31日現在

区分	事業数	完了		完了年月 (予定)
		実施事業	完成率	
河 川	60	51	85.0%	令和4年3月
道 路・ 橋 梁	175	174	99.4%	令和4年3月
公 園	5	5	100%	令和元年10月
治 山	148	49	33.1%	令和6年3月
砂 防・ 急 傾 斜	12	12	100%	令和3年3月
宅 地 堆 積 土 砂	6	6	100%	令和2年3月
簡 易 水 道 施 設	5	5	100%	令和2年11月
下 水 道	4	4	100%	令和2年3月
宅 地 耐 震 化	2	0	0%	令和5年3月
農 地	86	86	100%	令和3年7月
農 業 用 施 設	62	62	100%	令和3年11月
林 道	28	24	85.7%	令和4年3月
合 計	593	478	80.6%	

※北海道と町事業の合計
※「治山」は治山激甚対策特別緊急事業によりR5年度まで集中的に工事を実施。R6年度以降も引き続き、治山対策工事を実施。

一次産業のマチ・厚真にとって、基幹産業の復興が大きな課題です。農業では、崩落・流出して畑や水田に堆積した土砂は、大半が除去されましたが、改めて土づくりが必要な場所もあり、継続して北海道などへ肥培管理の支援を求めています。幌内沢地区の堆積土砂の除去作業は、今年度に終了する見通しで、令和4年度からこれまで作付けできなかった一部農地でも営農再開が見込まれています。

さらに、林業では所有者と話し合いながら被災地をどのように植林していくかなどが大きな課題です。7月には、総合福祉センター大集会室で森林再生・林業復興に係るシンポジウムを開き、学術的な視点などから崩壊地の現状などについて理解を深めました。町は、国などへの財政支援を含め、北海道と共同で森林の再生と林業の復興に向けた実施計画づくりのための作業を進めています。

主なできごと(令和2年9月～)

令和2年	9月5日(土) 6日(日)	北海道胆振東部地震厚真町追悼式(自由献花方式) 正午のサイレンに合わせて黙とう
	24日(木)	上厚真あかり団地の入居開始
	28日(月)	上厚真小5年生が崩落斜面に植樹
	10月16日(金)	JUAVACドローンエキスパートアカデミー 北海道校とパートナーシップ協定締結
	24日(土)	新町のぞみ団地・本郷きずな団地の入居開始
	11月27日(金)	ヤマト運輸株式会社と災害時における物資の緊急・救援輸送に関する協定締結
	12月20日(日)	社会福祉法人北海道厚真福祉会が新施設に引っ越し
	29日(火)	臨時災害放送局のあつま災害工フエム閉局
令和3年	2月19日(金)	一般社団法人日本ムービングハウス協会と災害時等における応急仮設住宅の建設に関する協定締結
	3月31日(水)	「第4次厚真町総合計画 改定版」を策定
	5月10日(月)	ウォレットジャパン株式会社と災害時の協定締結
	15日(土)	吉野地区に公益財団法人吉野山保勝会から寄贈されたシロヤマザクラの苗木を植樹
	7月3日(土) 29日(木)	森林再生・林業復興シンポジウム開催 Animal total care HAYACI災害時の動物救護活動等に関する協定を改定・締結
	8月14日(土)	吉野生活館跡地に献花台設置 (16日、9月4日～6日)
	9月5日(日)	慰霊碑除幕式(京町・つたえり公園) 北海道胆振東部地震厚真町追悼式
	6日(月)	正午のサイレンに合わせて黙とう